

■重要ハンド

- 1——ダブルアップして優勝戦線に復帰…39
- 2——再びダブルアップ—フラッシュ対セット…43
- 3——読みを間違う—トップペアをフォールド…68
- 4——AAでバリューベットすべきか、それが問題だ…88
- 5——WSOP 2回優勝のジェフ・マッドセンを飛ばす…106
- 6——ポットは290,000、フロップでエースハイ持ち…127
- 7——ここまで最大のハンド—前回王者を飛ばす…190
- 8——ポール・ワシカのオールインをエースハイでコールする…218
- 9——ハンス・マーティン・ヴォーグルに対してA♣K♣をフォールドする…253
- 10——大量得点—オールイン2人をJ♣J♠でコールする…258
- 11——最もタフな相手がトーナメントを去る。パトリック・アントニウスをパンクさせる…282
- 12——ジミー・フリッキーに対してA♣K♠をフォールドする…300
- 13——フルティルトプロのクリスティ・ゲージスを9♣9♥対AQで破産させる…339
- 14——5番目のペアでのベットをコールされる…343
- 15——ビッグポットでミスプレイする。K♥Q♠でトラブルに出くわす…372
- 16——プリフロップで7♠7♠のハンドで3.2Mをオールインする…376
- 17——アンディ・ブラックをセカンドペアでテストにかける…423
- 18——A♠2♠で流れを変える…435
- 19——ビッグコール—A♥K♥でバッドビートを食らう…464
- 20——不思議の国のガス…474
- 21——勝利—エースペアで逃げきる！…495

オージーミリオンズ～第1日～

今日のプレイを前に僕からのアドバイス

♠トーナメントの最初のレベルにどうアプローチすべきか？

トーナメントの最初のレベルへのアプローチには、いろんなやり方があるだろう。

2時間ばかり寝坊して、自分の気が向いたときにトーナメントに行けばいいと思っている人がいる。実際プロの中にも何人か、そのやり方を大真面目に、あたかも宗教の教義のごとく守っている人がいる。またその逆に、最初の2つのレベルは、トーナメントの行く末を光輝くものにするための大切な基盤作りの場だと考える人もいる。

まあこんな風に、人が唱える理論はかなり多岐に分かれているが、どれがいいかは一概には言えない。僕の意見としては、それは自分の気分次第で決めればよいということだ。

もし自分が前の日にリングゲームを遅くまでプレイしていて疲れきっているのなら、余分に休息を取ったほうがいだろう。最初のレベルでのプレイとそこで得られるはずのエクイティ（期待値上の利益）を犠牲にしてでも、後のもっと大事なレベルでベストのコンディションにもっていったほうがいいに決まっているじゃないか！

でももし自分が体調もバッチリで、いつでもプレイできる状態ならば、プレイを犠牲にする理由はない！

僕は両方試してみたが、後者のほうが間違いなく良い結果を出せた。当たり前なことだが、ポーカーテーブルでヘトヘトになるような日々を5日もの間、過ごすだけのスタミナが備わっているのなら、全てのレベルで全てのハンドをプレイするにこしたことはないのだ！ もちろん、その間生き残れるかは別の問題だが……。

僕自身がどうすべきかははっきりと決めかねているものの、人にアドバイスを求められたときにどう言うかははっきりしている。

「トーナメントの開始から、全てに参加すること」

もしそれが自分にとって初めてのメジャートーナメントなら、なおさらだ。あの雰囲気に入り、感情の高ぶりを抑え、観衆のざわめきを感じ取り、相手を観察する。そして何よりも、ポーカーをプレイする！ こうした事柄が全て積み重なってこそ、ポーカートーナメントというものが、ほかでは得られない経験となってくれるのだ。

何時に起きるかについて考えるのもいいが、それよりももっと大事な問題に移ろう。もちろんそれは、「ゲームの開始時点から参加するとして、どうプレイしていくか？」ということだ。

ここでも僕らの前にある選択肢は、全く正反対の2つのアプローチ方法だ。

- ①数多くのハンドにリンプインして参加し、安くフロップを見る。
- ②超保守的にプレイして、プレミアムハンドのみで参加する。

最初のアプローチが上手くいくかどうかは、フロップ後のプレイが上手いか、そしてテーブルにいる相手の誰かが重大なミスをしてスタックの大部分を差し出してくれるかにかかっている。このやり方を好むのは、自分が参加プレイヤーの中で一番上手いと思っている連中だ。要するに、ポーカープレイヤーほとんど全員ということだね。

2番目のアプローチが成功するかどうかは、ハンドの選択が上手くできるか次第だ！ Q♥4♥をプレイして、フロップでフラッシュをヒットさせるなんていうのは、そうなればそれに越したことはないが、狙ってやるようなことではない。誰でもプリフロップで優位に立ちたい。KKをプレイして、AJ、66、98スーテッドとかいったハンド相手に逃げきりたいものだ。

では、どちらのアプローチが良い結果をもたらしてくれるか？ 残念ながら、はっきりとは分からない。僕は両方試してみたが、上手くいったことも、いかなかったこともある。

僕の信念で言えば、ホールデムというのは大なり小なりフロップのゲームだ。だから、3枚のカードを比較的安く見るといふアプローチができるなら、それに越したことはないだろう。ただその場合の問題点は、相手にレイズされてしまうこともあるということだ。そうなると、ギャンブルハンドでは稼げなくなってしまふ！

またそれ以外の問題としては、早いレベルで大したことないスターティングハンドをプレイして上手くいくかどうかは、相手がミスしてくれるかどうかにかかっているということがある。個人的には、相手がどれぐらいミスしてくれるかということに

頼りすぎたゲームプランを立てるといのは、好みではない。

また、同じような理屈でこう言うこともできるだろう。

「ポットにほとんど金が入っていないのに、どうしてロクでもない手で頑張らなければならないのか？」

これについても、僕は反論することができない。自分が20,000のチップを持っているとき、87のオフスートで、ブラインドが50/100のときにミドルポジションから100を出してリンプする。こんなプレイは、絶対に稼げるプレイだとは言い難い。そう言いきるのは、いくらなんでも無理だ。そういうプレイで稼ぐには、「もし、～が起きたら」という仮定の条件がいろいろ重ならなくてはならないのだ！

しかしまあ残念なことに、保守的なアプローチのほうにも問題点はある。タイトにプレイしているときには、自分自身に常に問いかけ続けるべきことがある。それは、「自分のプレイスタイルは、簡単に読まれるんじゃないか？」ということだ。この問いに対する答えは、かなりの頻度で「イエス」である。この問題点は、注意しておく必要があるだろう。

こんな風に考えていくと、どうも僕は保守的なアプローチに軍配を上げているように思われるかもしれない。僕自身がフロップを見るのが大好きなため、それ以外のアプローチの欠点をわざと挙げつらっているように聞こえそうだが。

さて結論。僕個人は最初のアプローチのほうに傾いているが、それが優れているという議論に納得しているわけではない。つまり、この問題に正解は存在しないのだから。

思い出してほしいのだが、ここで話しているのはインターネットのトーナメントではない。オンラインゲームでは、ブライ

ンドとアンティがみるみるうちに上がっていくため、究極的にアグレッシブなプレイ以外にはあり得ない。

だが、ここでの舞台は、メジャートーナメントだ。ブラインドはゆっくりと上がっていくし、そのなかでそれぞれの好みのスタイルというものを生かしていく余地は十分にあるだろう。

では、トーナメントを開始することにしよう。

「シャッフル・アップ・アンド・ディール！」

ハンド1

| ブラインド | ポジション | ハンド | チップスタック |
|--------|-------|------|---------|
| 50/100 | 4番 | 7♠5♠ | 19.85K |

トーナメントの前日、僕はフィル・アイビーとパトリック・アントニウスを相手にこんなジョークを飛ばしていた。「多分主催者は、大会を盛り上げたいから僕たちを全部同じテーブルに固めるよ」。だが、350人ものプレイヤーがいる中で、そんなことはそう起こりっこない。

だから、僕はフィル・アイビー、キャシー・リーバート、そしてエヴァリン・エンが同じテーブルにいるのを見たときは、少しばかり驚いた。席の配置としてはこういうのは最高とは言えないが、まあ、少なくともパトリックとは一緒にはならずにすんだ。

僕は自分を朝方人間と言うことは到底できず、どちらかとい

うとエンジンのかかりが遅いほうだ。だから最初の2レベルの段階で、トーナメントの生き死にを賭けるというのは、できれば避けたい。だが世界最高のプレイヤーに属する3人もが同じテーブルにいる以上、気楽なスタートというわけにはいくまい。はっきりしているのは、最初から自分のベストのプレイをしなくてはならないということだ。

名前も知らないようなプレイヤーがもう少し多く同じテーブルにいてほしかったというのは、確かに事実だ。だが、フィル・アイビーと一緒にということで、ちょっとばかり面白い質問が僕の心の中に浮かんだ。

- ①彼は、「さあ、このトーナメントを勝つのは俺だ」的な気合の入った顔でテーブルに座っているか？
- ②それともそこにいるのは、ゴルフコースから直接来たみたいな、お気楽な様子のフィルか？
- ③僕らの間で成立しそうな面白そうなサイドベットは何かあるか？

それに対する答えは、以下のとおりだった。

- 1) そうではないと望みたい。フィルがベストな状態でプレイするという事は、優勝を狙っている他のプレイヤーにとって、大きな頭痛の種になるのだから。
- 2) このほうが、はるかにいい。どんなプレイヤーであれ、ポーカートーナメントに勝つのに必要なのは「集中すること」「勝つために献身的に努力すること」、そして「勝つこと

にしっかりと焦点を合わせること」だ。気楽なフィルには勝つチャンスはないとは言わないが、彼が優勝候補の1人として名を連ねるには、いい状態へとしっかりとギアを入れなければならない。

- 3) プロのプレイヤーの多くはトーナメントの間、仲間内でサイドベットするのが大好きだ。フィルも僕も、そういうプレイヤーに分類されると言えるだろう。

サイドベットには、3種類ある。「生き残り」、「入賞」、「クロスブッキング」の3つだ。

「生き残り」とは名前から想像つくように、相手よりも長くトーナメントで生き残らなくてはならない。「入賞」は、勝つためには自分が入賞しなくてはならない。これには通常、ファイナルテーブルに残った場合と、優勝した場合のボーナスがつく。この2つはあらかじめ賭け金を決めておくので、自分がいくら勝つか負けるかがはっきりと分かっている。

「クロスブッキング」というのは、それとは全く異なるタイプだ。これは要するに、相手が入賞しないというほうに賭けていることになる。もし相手が賞金を勝ち取れば、それと同額を負けた側が支払うシステムだ。逆に自分が入賞した場合は、相手が支払うことになる。

例えばフィルと僕がクロスブッキングをして、彼がトーナメントに優勝したとする。その場合僕は、1位の賞金と同額をフィルに払わなければならない、ここではそれは120万ドルにもなってしまうのだ！ ということで、このタイプのベットをするのはかなりのギャンブル狂に限られてくる。

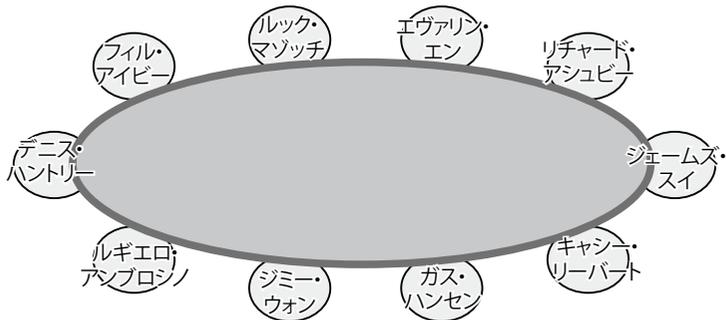
前年のワールドシリーズオブポーカーでは、僕は参加した2つのトーナメントで「入賞」のベットをした。不運にも、その相手はオマハハイ&ローのトーナメントで優勝したサミー・ファルハとH.O.R.S.E.で優勝したチップ・リースだったのだ。言うまでもないが、結果は大損に終わった！

さて、今回はその負けを取り返す番だ。サイドベットはトーナメントが始まる前に交わすのが普通だが、僕たちは同じテーブルに座っているので、しばらくの間はそのための交渉が続くかもしれない。

フィルと僕はどんな賭けを成立させるかについて、あれこれ話をした。しかしフィル・アイビーは、映画『交渉人』の主演俳優サミュエル・L・ジャクソンが、小学5年生に見えてしまうほどの交渉の達人だ。結局は第四の選択に落ち着かざるを得なかった。賭けは不成立！

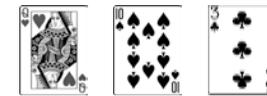
トーナメントの間中フィルの成績がどうなっているのか気にし続けるのは、自分がベストのプレイをするうえでの妨げになるというも確かだ。サイドベットをしないというのもまあ、それほど悪い考えではないともいえるだろう。

僕がいるテーブルのメンバーと配置は以下のとおり。



最初の1～2周の間、僕はかなりタイトにプレイしたので、このハンドはトーナメントで実際にプレイした最初のハンドだった。

僕がいる4番目のポジションまで、全員がフォールド。僕は7♠5♠でリンプインすることに決める。ジミーもリンプして、フィルとブラインド2人も同様にリンプする。5人参加でフロップへと進む。

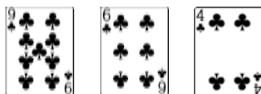


引けそうもないバックドアフラッシュを除いては、「何もない」フロップと言えそう。チェックフォールドして次のハンドへ、というのが当然だろう。ブラインドは2人ともチェックして、僕もチェック。フィルが300を500のポットにベットして、ほかは全員マックする。

ハンド2

| ブラインド | ポジション | ハンド | チップスタック |
|--------|-------|------|---------|
| 50/100 | BB | 8♣7♥ | 19.75K |

4人の相手が100を出してリンプしてきた。87o（87オフスート）の僕は、BBでテーブルをタップする。再び5人でフロップへ。



なんとまあ、ミスプレイを誘われそうなフロップ！ オープンエンドストレートドローに加えてエイトハイ・フラッシュドローもついてきている。一見良さそうに見えるが、実のところ、これで頑張るわけにはいかない！ 4人も相手がいるのだ。誰か上のフラッシュドローを持っている可能性は高いし、誰かがすでにフラッシュを完成させている可能性だってある。

僕はチェックして、ただでターンを見せてもらってストレートの完成に期待する。頭2人のリンパーもまたテーブルを叩くが、ボタンのジェームズが、ポット越えの600をオーバーベットしてくる。SBはフォールドして、僕もすぐさまそれにならう。

すでにドローイングデッド逆転不能かもしれない危険性に加えて、後ろにまだ3人もアクションが残っているのだ。ここでコールするのは、ほとんど不可能だ。全員が降り、ジェームズが開いて見せたのは9♥4♥。このハンドばかりは、コールしておけばよかった！

ハンド3

| ブラインド | ポジション | ハンド | チップスタック |
|--------|-------|------|---------|
| 50/100 | SB | 8♥7♠ | 19.65K |

SBの僕のところまでに全員が降りて、カードを見ると再び87oだ。リンプでもフォールドでもよいが、それよりはレイ

ズしたほうがはるかに楽しい。それに、そろそろ最初のハンドを勝ってもいいころではないか。そこでレイズして、ジミーはフォールドする。

ハンド4

| ブラインド | ポジション | ハンド | チップスタック |
|--------|----------|------|---------|
| 50/100 | ボタンのひとつ前 | 9♣7♣ | 19.4K |

ハンドがまたひとつ、リンプもまたひとつ！ 僕はボタンのひとつ前で9♣7♣を持っている。100をコールして安くフロップを見られることに期待するが、ボタンはそれより高めにプレイしたいようで350までレイズ。BBがコールし、僕も250を追加して850を手にするためにコールする。

フロップが開く。



今度もどうやら僕が望んでいたようなものではなかった。BBはチェックし、僕もその後ろでチェック。ボタンは1,100のポットに700をベット。

僕のハンドがマックに投げ入れられるのは、わが友BBがレイズを宣言するのよりも早かったかもしれない！ BBは2,200までレイズして、ポットを手にする。

ハンド5

| ブラインド | ポジション | ハンド | チップスタック |
|--------|---------|------|---------|
| 50/100 | ボタンの2つ前 | 7◇6◇ | 19.15K |

その次のハンドで、僕は再び馬にまたがり出撃する。僕のスタックはスタートしてから少々削られているものの、ここでリンプする戦略をやめるつもりはない。ミドルポジションで素敵なスーテッドコネクターがきたとあれば、なおさらだ。僕はボタンの2つ前のポジションから、7◇6◇でリンプ。ブラインド2人もリンプという、なかなかいい状況になる。

フロップが開く。



ヒットしない！ ブラインドは両方ともチェックし、僕は300のポットに150の一撃を入れてみる。SBはフォールドするが、BBは待ち構えていたようにすぐさま400へとレイズ。僕はセブンハイの何でもないハンドをマックする。

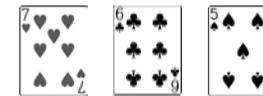
ハンド6

| ブラインド | ポジション | ハンド | チップスタック |
|--------|---------|------|---------|
| 50/100 | ボタンの2つ前 | Q♥9♥ | 18.55K |

僕はボタンの2つ前のポジションから、Q♥9♥で300へとオープン（最初にポットに参加するようなアクションを取るこ

と）する。4人しかアクティブプレイヤーが残っていない状況では、なかなかのハンドではないか！ BBのルック・マゾツチだけが僕の客となる。

フロップが開く。



僕はルックのプレイスタイルについて、特にはっきりとした印象を持っているわけではない。しかし、彼をそれなりに保守的なプレイヤーに分類しているの、恐らくハイカードを持っている可能性が高いだろう。その彼がチェックしてきたので、僕は400をベットし、そこでポットを勝ち取ることを狙う。

もしこれが上手くいかなければ、第二のプランであるターンで8をヒットさせるほうに切り換えるつもりだ。

プリフロップでレイズした後、フロップでベットすることを「コンティニュエーションベット」という。請け合ってもいいが、このプレイはこれから何度も見かけることになるだろう。彼はコールする。されば第二のプランを発動して引きに行く番だ。

ターン。



8ではないが、いやらしいストレート完成を匂わせる3が出た。彼はチェックする。僕は、いまこそ第三のプランを発動させるときだと確信した。

彼はフロップの前もフロップでも、強みを見せてはこなかった。だからこの「4枚ストレート」のボードでもう1発撃てば、彼は降りるだろう。1,450のポットに対しての900のベットはそれで十分だと思われる。

だが残念なことに、ルックのほうでは2,900をベットしてもいいと思っていたようだ！クイーンハイで2,000もレイズされてはどうしようもないので、僕はマックすることにする。

第一のプランは良かったが、第二のプランには運が必要で、第三のプランはどうやら架空のものだったようだ。全体として、ベストのプレイができたとは言えない。

まだ始まったばかりで、自分のミスを取り戻すだけの時間は十分にあるが、こんな風に1,600を無駄にして「何もない手」でムーブ（ブラフなどの何らかの技巧を伴うプレイ）を仕掛けるなんていうのは、何度もできっこない。

ハンド7

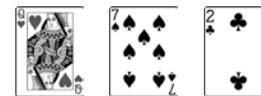
| ブラインド | ポジション | ハンド | チップスタック |
|--------|-------|------|---------|
| 50/100 | BB | 3♠2♠ | 16.95K |

僕は2ハンドほど降り続けて、いまBBのポジションにいる。SBのキャシー・リーバートのところまで全員フォールドし、彼女は300までオープンする。

ポジションもないのに彼女が僕を押し出しにかかっていると考えるのが難しい。僕をいじめにきているという確信が得られるまでは、彼女には良いハンドがあるとみなすことにする。それで

も3♠2♠のハンドは、もう200出してコールするには十分だろう。

フロップが開く。



ボトムペアか！ヒットはしたものの、喜ぶにはほど遠い。だが、この完全に散らばったボードには、ストレートドロウもフラッシュドロウもない。だからこんなかみ合いにくいフロップでは、勝っている可能性も高い。

もしここで彼女がチェックしていたら、ミスしている可能性はさらに高まっただろうが、キャシーは400をベットしてくる。何の情報も持っていないなかで、僕は2つのうちどちらの方向へ進むべきかを決めなくてはならない。

①フォールドする！

だが、ペアとバックドアフラッシュドロウがあるのに、これはちょっと早すぎるかも。

②コールする！

ターンに何が出てくるかを見るのも妥当で、ポジションの有利さを生かせるかもしれない。

③レイズする！

法律で許されている範囲でのプレイとしては、やっていいギリギリの選択だろう。これなら現状自分よりも弱い手や、ある程

度なら強い手でも降ろせそうだ。またこれによって、僕がどのくらい勝っているのかあるいは負けているのか、情報も得られるだろう。

②か③のどちらにするか微妙なところだ。そんなときはいつもそうするように、アグレッシブなほうを選ぶ。僕は900までレイズするが、キャシーが即座に4,000までレイズし返してくるのを見て、すぐさま後悔する。ボトムペアには、おさらばの時間だ。

僕はレイズしたことで、900のチップとより強いハンドを引きに行くチャンスの両方を失った。だが、時にはこういう代償を払ってでも、ポットを取れるかどうか試してみなくてはならないと思っている。キャシーがベストハンドを持っていたのは確実で、降りたからといって恥ずかしいことは何もない。

ハンド8

| ブラインド | ポジション | ハンド | チップスタック |
|---------|-------|------|---------|
| 100/200 | SB | 7♠5♠ | 15.65K |

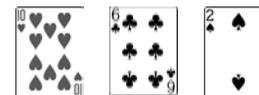
いまの立ち位置をチェックしておこう。レベル1が終わって僕のスタックは20%減！ とはいえ、そんなに心配することではない。僕にはまだ、15,000以上のチップが残っているのだから。

ブラインドは100/200へと上がっている。僕のいるSBまで全員フォールドし、僕は7♠5♠で600へとオープンする。前に一度、僕はジミーのブラインドをスティールしたのだが、今度

はそうはいかないようだ。ジミーは900上乗せしてリレイズする。

この小さく妙なレイズ額はいったい何なんだ！ これはコールを誘う狙いかもしれない。そうならば、強い手を持っていても不思議ではない。僕はお誘いがあったときには大抵喜んでお受けすることにしている。オッズが良いときには、なおさらそう

今回もその例外ではない。とはいえ、強力なハンド相手にぶつかっているのかもしれない、注意深く進めていこうというのが僕のプランだ。僕は900をコールして、フロップを見る。



さてと、パーティーは早くもお開きのようだ。僕には何もないので、チェックするのが正解だろう。ジミーは2,000をベットして即座にハンドはおしまい。僕のチップスタックの10%が、またもやどこかに消えてしまった。

ハンド9

| ブラインド | ポジション | ハンド | チップスタック |
|---------|-------|------|---------|
| 100/200 | BB | A♠J♥ | 14.15K |

デニス・ハントリーが、3番のポジションから600へとオープン。フィル・アイビーがそのすぐ左でコールし、僕もBBからA♠J♥でコールする。リレイズしようなんて考えもしなかった。というのも、10人テーブルでアーリーポジションから参

加してきたプレイヤーを2人も相手にしているからだ。

この僕が言うのは馬鹿げているように聞こえるかもしれないが、コールするのでなければ、その次に考えられる選択はフォールドだ。フロップが開く。



何もヒットせず、僕のハンドは力尽きたようだ。僕はチェックし、デニスもチェック。フィルが1,200をベット。彼のことだから、何を持ってベットしてきているのかは分かったものではない。とはいえフィルに加えてもう1人、プレイヤーが残っている状態で、エースハイで打ち返すというプレイは「本日のおすすめメニュー」には載っていない。僕はフォールドし、デニスも同様に降りる。

ハンド10

| ブラインド | ポジション | ハンド | チップスタック |
|---------|-------|------|---------|
| 100/200 | 1番 | K♥Q♥ | 13.45K |

僕は1番目のポジションからK♥Q♥で600へとオープンする。後ろはみんな降りて、BBのキャシーが400をコールする。フロップが開く。



キャシーはチェックし、僕は標準的なコンティニューエーションベット（プリフロップでレイズした後、フロップで何か当たっても何も当たらなくてもベットすること）を打つ。額はポットの半分強の700だ。彼女は即座にコールして、ターンに落ちたのは、



キャシーは再びチェック。僕は深く考えることなく2発目を打つ。額は2,650のポットに対して1,625だ。キャシーはここでもまた、ほとんどためらうことなくコールする。キングかクイーンがリバーに落ちてくれるといいのだが……。

リバーは、



キャシーは3度目のチェックをして、僕は白旗を揚げることにする。ターンでそうしておくべきだったのだ。5♠はスケアカード（怖いカード）でも何でもなく、ただでカードを見せてもらうほうが適当なプレイだっただろう。

キャシーは8♥8♦のトップツーペアを開いて見せ、予想どおり僕のキングハイは素敵なセカンドベストハンドで終わる。

いまの1,625みたいなチップのばらまきをやめないかぎり、僕のチップが底をつくのはそう遠くはあるまい。僕の残りスタックはやっとなさ10Kで、まだセカンドレベルをプレイしているのだ。上手くやれているとは到底言えない！